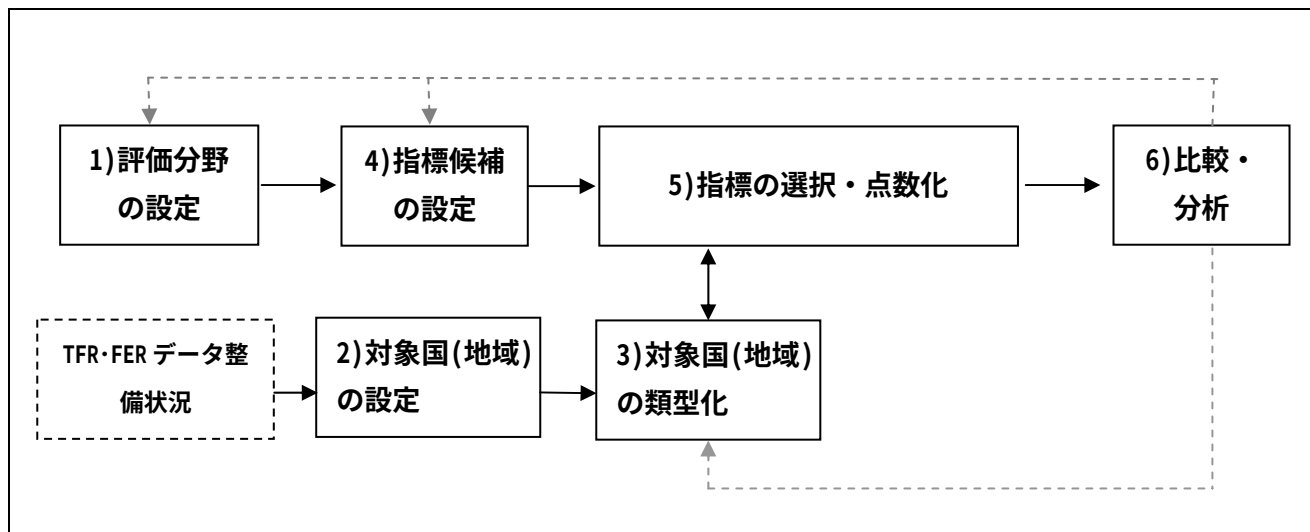


統計指標に関する検討の概要

I. 調査分析の枠組み

【調査分析の枠組み】



1) 評価分野の設定

評価分野は、これまでの打合せ会・専門調査会における議論を踏まえて、「8つの分野」を基本として整理・検討している。

【ポイント】

- ・ 「個人－社会」「意識－実態」の2つの軸から設定された8つの評価分野を基本として整理している。
(①社会の流動性／②地域の子育て環境／③働き方／④子育ての経済的負担／⑤家族形態／⑥家庭生活や家族に対する意識／⑦性別役割分担／⑧社会不安)

2) 対象国(地域)の設定

分析の対象とする国(地域)は、「合計特殊出生率」と「女性労働力率」等の基礎データが整備されているところとしている。

【ポイント】

- ・ OECD30 か国のうち、本調査における分析の基礎となる「合計特殊出生率」と「女性労働力率」のデータが1980年から2000年まで整備されている国(19か国)を対象としている。

日本／オーストラリア／オーストリア／カナダ／デンマーク／フィンランド／フランス／ドイツ／アイルランド／イタリア／韓国／オランダ／ニュージーランド／ポルトガル／スペイン／スウェーデン／スイス／イギリス／アメリカ

※なお、国内の分析では都道府県及び政令指定都市を対象とする予定。

3) 対象国（地域）の類型化

以下の2パターンで案を示した。

- ① 1980年～2000年の「合計特殊出生率」と「女性労働力率」の動向により、分析対象国19か国の類型化を行う。
- ② 2000年の「合計特殊出生率」と「女性労働力率」の水準により、類型化を行う。

【①のポイント】

- ① 「合計特殊出生率」「女性労働力率」の1980年から2000年にかけての増減状態（±）により分類している。

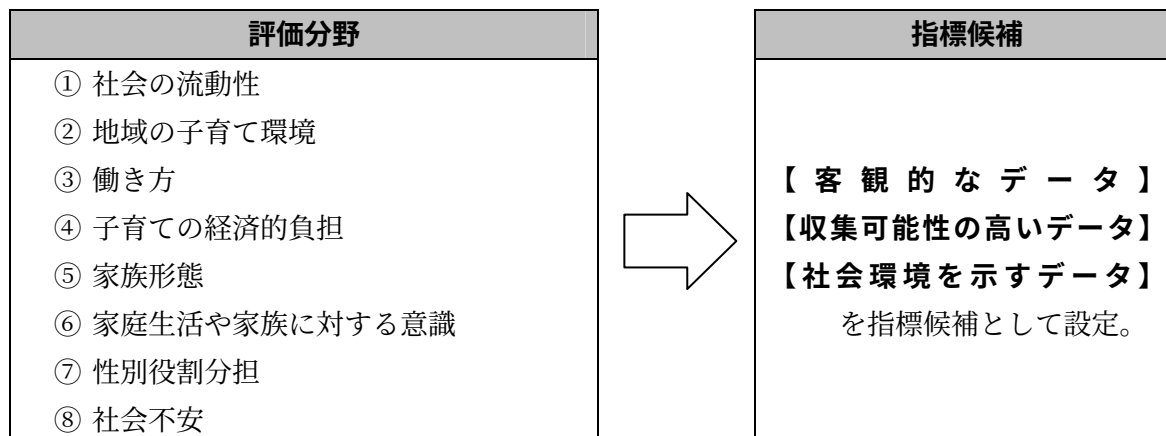
多くの国が該当する「合計特殊出生率（－）／女性労働力率（＋）」の類型については、「合計特殊出生率」の減少率による細分化を行っている。さらに、2000年時点の水準での細分化案も示した。

4) 指標候補の設定

指標候補は、既存調査等から、「合計特殊出生率」と「女性労働力率」の水準や推移と相関があることが予想されるものを設定している。

【ポイント】

- ・ できるだけ客観的なデータにより指標を構築する必要がある。
- ・ 「社会環境」だけでなく、「意識」による差も大きいと考えられることから、関連する意識調査の結果も指標に盛り込んでいる。
- ・ より多くの国、より長期の年次を比較・分析するため、収集可能性を重視して指標を設定している。
（同一名称の指標でも、国によって定義が若干異なる場合／国によって特定年次が収集できない場合もある。公表データとして統一して収集できる指標は限定されるため、代表性が高いものについては、比較・分析の上で定義に留意することを前提に、採用している。）
- ・ 子どもを産み育てながら働くことにプラスに働く「社会環境」を示すデータにより指標体系を構築している（法制度等（有無／内容等）は別扱いとして、基本的に指標体系には組み込んでいない（法制度等については、次のフェーズで検討予定））。

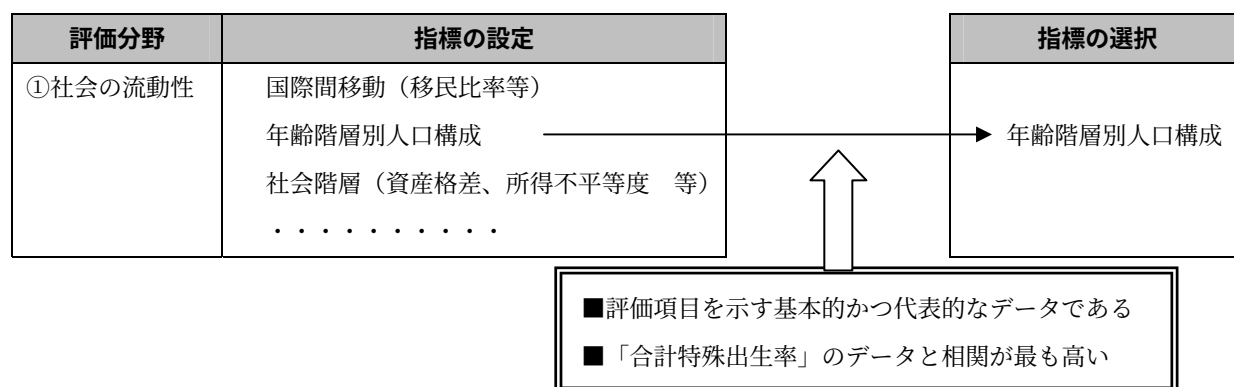


5) 指標の選択・点数化

8つの評価分野ごとに、指標を選択して「点数化」している。今回はアウトプットイメージを示す目的で作成しており、今回示した指標は、現在収集できているデータの中から、仮に選択したものである。

【今後の指標選択の考え方：1分野1指標バージョン】

- 評価分野ごとに、以下の条件で1つの指標を選択する。
 - 基本的なデータであり、一般的に、評価分野を代表するデータと考えられること
 - 合計特殊出生率のデータと相関が最も高いこと（例 合計特殊出生率との相関係数の高いものを選択）



- 指標選択の考え方としては、評価分野ごとに1つの指標を選択する方法の他、評価分野ごとに複数の指標を選択する方法がある。それぞれの利点・問題点は次表に示す通りである。

（指標選択の考え方）

評価分野ごとに 選択する指標数	利 点	問題点	本日の関連 資料番号
＜パターン1＞ 1つの指標を選択 （単純化）	- わかりやすい - 分析結果（想定される要因）から指標への遡及が容易である	他の指標の要因までカバーすることができない	参考資料 2－5－1)
＜パターン2＞ 複数の指標を選択 （統合化）	複数の指標を評価対象とすることができる	複数の指標を根拠ある方法で統合化する必要がある	①単純平均による 統合化 参考資料 2－5－2)
			②ウェイト付けに よる統合化 → 重み付けの判 断基準の設定 が必要 —

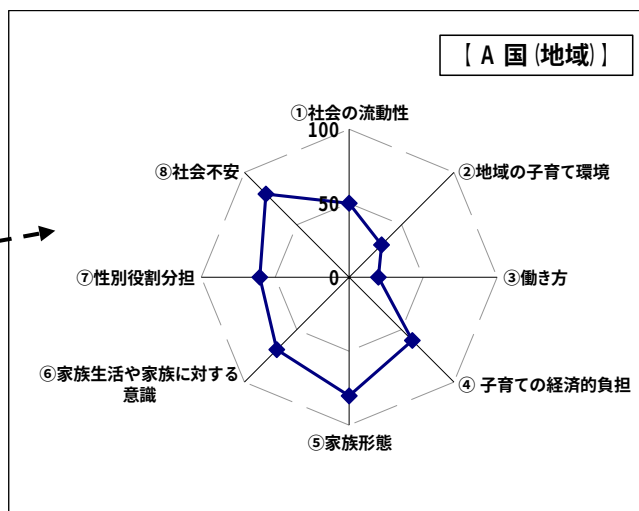
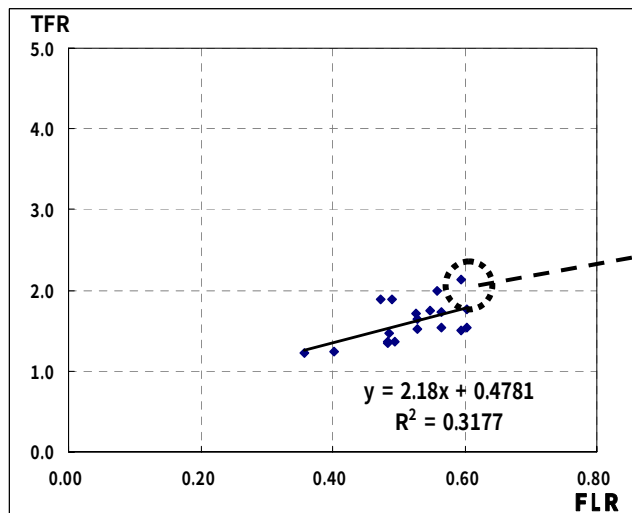
- 選定された指標を、平均、標準偏差をもとに標準化し、点数化（偏差値）している。
 （偏差値 ＝ （指標値－平均値）／標準偏差×10＋50）

6) 比較

各国（地域）の比較は、明瞭・簡潔な方法で行うことを目指して、レーダーチャート化により行っている。

【ポイント】

- ・ 8つの評価分野を軸として、レーダーチャートを作成して各国（地域）の比較を行っている。



- ・ 合計特殊出生率と女性労働力率との相関係数のプラス・マイナスを確認し、マイナスの場合はプラス・マイナスを反転させてプロットしている。